

「顛娃小学校の棒踊り」 伝承活動の取組

1 学校名

南九州市立顛娃小学校

2 学年・人数

5・6年生（計40人）

3 日時・場所

(1) 練習の場所・日時

顛娃小学校体育館・校庭（9月）、運動会前の体育学習（10月）

(2) 発表の場所・日時

顛娃小学校・郡地区合同運動会（10月）、顛娃小学校校庭

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事や史跡について

(1) 名称

棒踊り（ぼうおどり）

(2) 由来

棒踊りは中国の棒術の流れを組んだ芸能で、島津日新公（じっしんこう）が庶民の忠誠心を培うために、踊らせたものと伝えられている。六尺棒・三尺棒・鎌・扇子などの道具を使って、囃子に合わせて一糸乱れない機敏な動きで勇壮活発に踊る。服装は稽古着、袴に白ダスキ、白ハチマキを締めて踊る。

(3) 構成等

歌詞の1番は「後は山で前は大河」、2番は「鎌ん柄が折れた。三束（さんば）遅れた。」である。地域によって歌詩の内容が異なり音曲も異なる。まず「でばえ」といって、出陣する際に士気を高め、見送る者にあいさつをする動きを行う。次の「三尺」は、隊形は全員が刀を持ち、4人1組となって前後左右で刀を合わせる。次の「六尺」は、なぎなた2人、刀4人の6人構成で行い、刀同士、なぎなた同士、刀となぎなたなど、前後左右で打ち合う。

5 保存会や地域との連携の具体

古くから顛娃小学校区の郡（こおり）地区で継承されていた棒踊りであったが、一時消滅しかけていた時期があった。その時、幼小の頃踊った経験のある松久保信雄さんを中心とする方々が、記憶を頼りに歌や踊りを復活させ、それ以来、顛娃中学校の体育祭で毎年踊られるようになったが、平成7年頃になると中学校でも踊られなくなった。そこで、当時の顛娃小学校長が小学校の運動会で踊ることを提案し、これまで継承されてきている。現在は、「歌者及び指導者」として松久保信雄さんから指導を受けているが、指導者は松久保さんのみであり、他の地域の指導者が待ち望まれる。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

- (1) 5・6年生の運動会の表現種目として体育の年間指導計画に位置付けて練習している。
- (2) 6年生が5年生の時の経験をもとに5年生に指導する練習方法をとっている。
- (3) 衣装等は、郡地区公民館から提供をしてもらっている。
- (4) 運動会の当日は子どもたちの着付け等を保護者をお願いし、親子で棒踊りの伝承活動に取り組んでいる。

7 取組の様子（練習状況，発表の場等）



練習の様子



運動会での発表の様子

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

(1) 児童の感想から

- ア 運動会では緊張したけど、今まで一生懸命練習してきたことを思い出し、自信を持って踊ることができました。来年は、私たちが5年生に教えてあげる立場な

ので、きちんと教えてあげたいと思います。(5年生)

イ 歌を松久保さんが歌ってくださいました。踊りが終わると、松久保さんが「今日が一番良かった。」と言ってくださったので、一生懸命に踊って良かったと思いました。(5年生)

ウ 私は、昨年以上に頑張りました。「棒踊り」は6年間の思い出であり、一生の思い出です。(6年生)

エ 運動会で、私たち5・6年生は「棒踊り」を踊りました。棒踊りは、古くから伝わる郷土芸能です。運動会当日はとても緊張したけれど、6年生で最後なので、今までで一番声を出して元気よく踊りました。終わった後に、地域の方が「良かったよ。」と言ってほめてくださいました。すごくいい思い出になりました。

(6年生)

(2) 教職員の感想から

棒踊りの伝承活動は、郷土を愛する心を育む活動になっており、子どもたちが一生懸命に踊る姿は、地域の方々に感動を与えてくれる。踊り終えた子どもたちの顔は、達成感に溢れている。地域の方々も運動会での発表を毎年楽しみにされているようである。小学校としてもビデオやテープ等での収録・保存も進めながら、「棒踊り」の継承に取り組んでいきたい。